

経営比較分析表

神奈川県 清川村

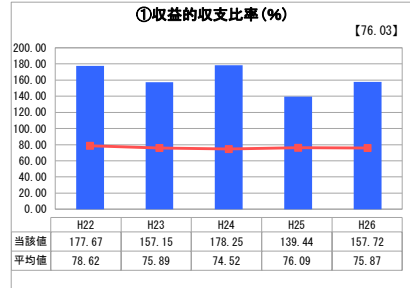
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	97.72	1,663

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
3,081	71.24	43.25
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,006	4.50	668.00

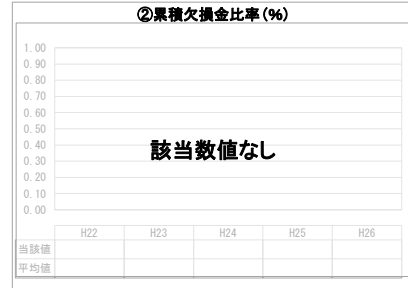
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

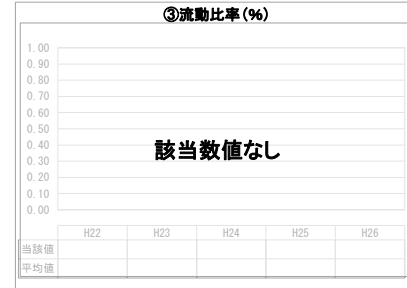
1. 経営の健全性・効率性



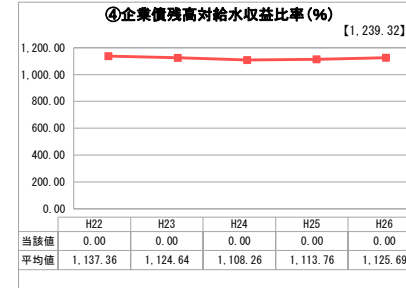
「単年度の収支」



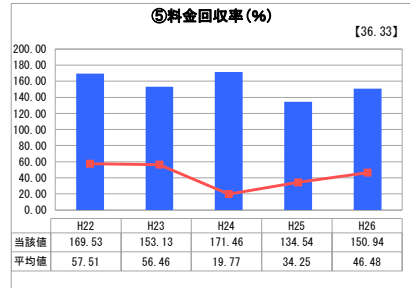
「累積欠損」



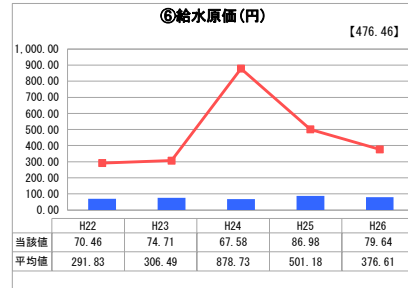
「支払能力」



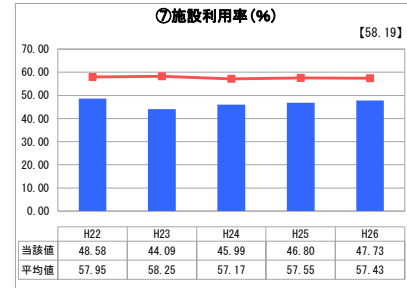
「債務残高」



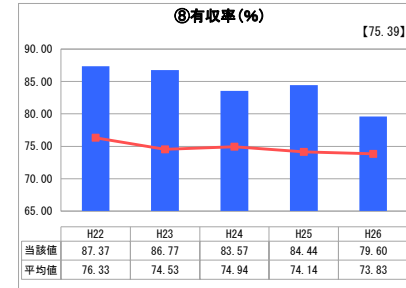
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

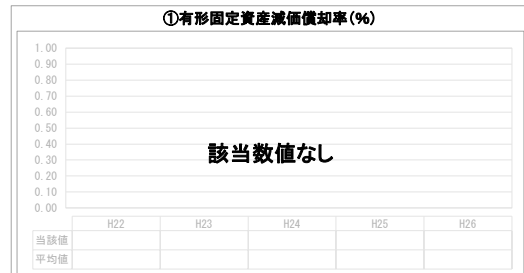


「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

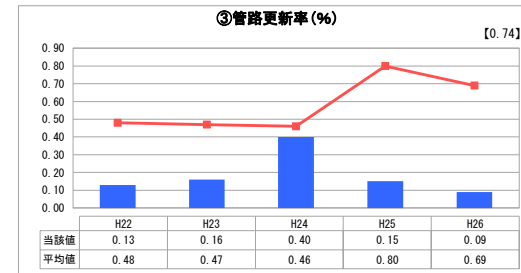
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率も100%を超え、平均値も上回っており、また企業債の借入残高もなく、料金回収率についても100%を超え、平均値を上回った回収がされており、比較的健全な経営であるものと思われまます。給水原価についても、運転管理経費を極力抑えていることから、平均値よりも低い原価となっております。有収率については、平均値を上回っておりますが、平成26年度において大幅に下がっており、原因が漏水であるものと思われることから、定期的に給水区域の漏水調査を行っていきます。経営が比較的安定しているものの、料金収入が年々下がっており、また施設の老朽化対策を講じていくため、さらなる経費の削減が求められます。

2. 老朽化の状況について

施設の老朽化については、10年計画を立て、随時改修に努めています。管路については老朽化が進んでおり、今後、急務な改修箇所を洗い出し、優先順位をつけ、投資計画を策定する必要があります。

全体総括

近年、各家庭において節水型家電の普及、また人口の減少に伴い、年々水道使用量の低迷が進んでおります。一方、施設、設備及び管路の老朽化により、維持管理経費は増加傾向となっていることから、収支のバランスを見据え、経費の削減として施設管理の委託化、また料金の改正を検討していく必要があります。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。